様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　６ 月　１ 日現在

機関番号：１４４０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2016～2022
課題番号：１６Ｋ０２７６６

研究課題名（和文）英語メタファーの認知詩学

研究課題名（英文）Cognitive Poetics of Metaphor in English

研究代表者
大森　文子（Omori, Ayako）

大阪大学・大学院人文学研究科（言語文化学専攻）・教授

研究者番号：７０２１３８６６

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,400,000円

研究成果の概要（和文）：研究代表者と分担者は、古英詩Beowulfから、Shakespeare、Wilfred Owen、19世紀英国寓意詩に至るまで、広範な英詩を研究対象として認知詩学の観点からメタファー分析を行い、計22本の論文、1冊の図書を刊行した。特筆すべき成果としては、代表者は『認知言語学大事典』（朝倉書店、2019年刊行）において「認知詩学」の項目を執筆し、当該分野の歩みを概説し、認知詩学研究の意義や課題について論じた。分担者は3冊の国際共著にBeowulfについての論文を発表し、英国での国際学会において3 度口頭発表した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
研究代表者が執筆した『認知言語学大事典』の「認知詩学」の項目は、21世紀に台頭し、現在発展途上ながら高い関心を集めている認知詩学の分野の歩みと研究の意義や課題について詳細に論じたものであり、この分野の基本文献として学界に寄与することが期待される。研究分担者はInternational Association of Professors of English (IAUPE)の会員に推挙され、英国における国際学会で3度口頭発表を行い、また、国際的な学術誌や論文集に3本の英文論文が掲載された。これらは分担者の長年にわたるBeowulf研究の集大成であり、新たな知見を学界に提供するものとなった。

研究成果の概要（英文）：In this collaborative study of “Cognitive Poetics of Metaphor in English,” the two researchers have conducted semantic analysis from the viewpoint of cognitive poetics on a wide range of English poems, from the Old English poem Beowulf to Shakespeare, Wilfred Owen, and 19th century English allegorical poems, and published 22 articles and one book related to the subject. As their remarkable achievements, Omori authored the part of “Cognitive Poetics” in the Encyclopedia of Cognitive Linguistics (Asakura Shoten, 2019), in which she outlined the history of the field and discussed the significance and challenges of cognitive poetic researches. Watanabe published three English papers on Beowulf, and gave three oral presentations at international congresses held in the United Kingdom.

研究分野：認知言語学

キーワード：認知詩学　メタファー　レトリック　寓意　擬人化　Shakespeare　Beowulf　Wilfred Owen

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

１．研究開始当初の背景

詩的表現を認知言語学の重要な対象と見なす視点は、既に 20 世紀後半から見られる。Lakoff and Turner, More than Cool Reason: a Field Guide to Poetic Metaphor (1989)では、詩を認知的に分析することの意義が強く説かれている。この見解は 21 世紀に入り深まりを見せ、Peter Stockwell らの功績により認知言語学の関連分野として認知詩学が生まれた。この四半世紀、認知詩学の分野は徐々に発展を遂げているが、テクスト読解、理論構築の両面において、今後さらなる研究の深まりが期待される。また、この分野での先行研究の対象は、個別詩人や限られた時代であり、共時的構造性と歴史的連続性を関連させて論じた研究はない。この単独研究者では困難な複合的研究課題を、連携体制が出来ている認知言語学・近代英詩研究者と文献学・英語史専門研究者の共同研究により遂行する。研究代表者と分担者は研究開始時点において（2021 年度まで）同じ大学の同じ部局に属し、大学院の演習科目も共通の「認知レトリック論研究」を毎年担当してきた。このため共通の指導大学院生も多い。研究代表者と分担者は、所属部局において学生指導と研究成果発表の場を兼ねた「言語文化レトリック研究会」を 2001 年以来継続的に開催してきた。このように本研究課題の共同研究の成果を、若手研究者の教育にも利用することができる環境にある。

２．研究の目的

上述のように、21 世紀に入って成立した認知詩学の分野は、現在発展途上である。Stockwell, Cognitive Poetics: an Introduction (2002) および Gavins and Steen (eds.), Cognitive Poetics in Practice (2003) は認知詩学を学ぶ上で必読書であるが、これらの研究を詳細に検討してみると、テクスト読解、理論構築の両面において、問題点が山積している。この発展途上の分野の問題点を整理し、認知詩学のさらなる進展を目指し、本研究では英米詩を研究対象とし、諸作品におけるメタファー表現の緻密な分析を通して、メタファーの認知構造の解明を試みる。

３．研究の方法

本研究では、研究代表者および研究分担者がそれぞれこれまでに遂行してきた科研費補助金の助成を受けた研究の方法と成果を踏まえ、古英詩 Beowulf から近現代詩人に至るまでを研究範囲とし、通史的にメタファーの構造を探究する。研究分担者は主として古英詩、中世から近代にかけての英詩を、研究代表者は Shakespeare から近現代までの詩作品を担当し、分担してメタファー用例を収集し、分析研究を行う。代表者は認知言語学の理論的動向や分析手法に関する知見を提供し、分担者は歴史言語学者の見地から通時的手法を導入し、文献学的知見を提供する。代表者と分担者は各自の個人研究と並行して共同研究において定期的に助言や進捗状況確認を行い、共同開催する研究会や所属部局で毎年刊行している言語文化共同研究プロジェクト報告書、国内外の学会等においてその成果を発表、刊行する。

４．研究成果

本研究では、古英詩 Beowulf から、Shakespeare、Wilfred Owen、19 世紀英国寓意詩に至るまで、広範な英詩を研究対象として認知詩学の観点から意味分析を行い、研究代表者と研究分担者が合わせて計 22 本の論文および 1 冊の図書を刊行した。中でも特筆すべき成果としては、まず、研究代表者の『認知言語学大事典』への寄稿が挙げられる。本書は日本認知言語学会設立 20 周年を記念して 2019 年に朝倉書店から刊行され、認知言語学と関連分野の指導的研究者らが執筆している。研究代表者は「認知詩学」の項目を執筆した。10 ページにわたるこの項目は、認知詩学の分野の歩みを振り返り、認知詩学研究の意義や課題について論じたものである。特に、テクストの言語内・言語外コンテクストへの目配り、テクストの背景にある間テクスト性への高い意識が認知詩学研究には欠かせないこと、また、外国語、古い時代のことばなど、研究者にとってなじみの薄い言語を対象とするときには、注釈書などを積極的に活用し、テクストの正確な解釈を心がけることが必要であることを、実際の研究成果の例を挙げながら詳細に論じた。本書は言語学研究者から認知言語学に関心をもつ一般読者までを対象としたものであるから、本書に執筆した内容は、長くこの分野の基本参考文献となることが期待される。
研究分担者は 3 冊の国際共著に、古英詩 Beowulf についての研究論文を発表した。これらの論文には本研究課題に連なる分担者の 30 年以上に渡る古英詩研究の成果が盛り込まれている。また、英国での国際学会において 3 度、Beowulf のメタファーについて口頭発表した。この口頭

発表は分担者が International Association of Professors of English (IAUPE)の会員に推挙されて可能になったことである。これらの発表で、Beowulf においては戦士・怪物・剣・炎が互いに相手を表すメタファーとして用いられており、メタファーが円環構造をなすことを学界に初めて提示した。
さらに、本研究の副次的成果として英語教科書刊行が挙げられる。研究代表者と分担者は、メタファーやレトリックが豊富にみられる英字新聞論説記事の分析研究に数年来取り組んでおり、分担者の主導で日本の社会や文化をテーマとした論説記事を集積してその意味の構造について注釈と設問によって解説する英語教科書 Advanced Reading Word to Word（ニュースメディアで読み解く現代日本）を刊行した。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計22件（うち査読付論文　3件／うち国際共著　3件／うちオープンアクセス　12件）

１．著者名 大森文子	４．巻 －
２．論文標題 鏡と水仙―シェイクスピアのSonnetsにおける隠されたレトリック	５．発行年 2023年
３．雑誌名 レトリックと文法（言語文化共同研究プロジェクト2022）	６．最初と最後の頁 ―
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 大森文子	４．巻 －
２．論文標題 時のメタファーとシェイクスピア	５．発行年 2022年
３．雑誌名 英語のレトリック・日本語のレトリック（言語文化共同研究プロジェクト2021）	６．最初と最後の頁 17-29
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.18910/88420	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 大森文子	４．巻 －
２．論文標題 ShakespeareのSonnets における逆転のレトリック	５．発行年 2021年
３．雑誌名 感情・感覚のレトリック（言語文化共同研究プロジェクト2020）	６．最初と最後の頁 15-27
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.18910/85059	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 大森文子	４．巻 －
２．論文標題 連句の認知詩学	５．発行年 2021年
３．雑誌名 認知言語学の最前線　山梨正明教授古希記念論文集	６．最初と最後の頁 231-251
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 大森文子	4．巻 —
2．論文標題 The Lion’s Parliamentにおける寓意のメタファー	5．発行年 2020年
3．雑誌名 レトリックとメディア（言語文化共同研究プロジェクト2019）	6．最初と最後の頁 21-32
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.18910/77038	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 —

1．著者名 大森文子	4．巻 —
2．論文標題 Owenのメタファーとオクシモロン	5．発行年 2019年
3．雑誌名 レトリックとコミュニケーション（言語文化共同研究プロジェクト2018）	6．最初と最後の頁 11-22
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.18910/72809	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 —

1．著者名 大森文子	4．巻 —
2．論文標題 認知詩学	5．発行年 2019年
3．雑誌名 認知言語学大事典（朝倉書店）	6．最初と最後の頁 249-259
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 —

1．著者名 大森文子	4．巻 —
2．論文標題 喜びと悲しみのメタファー：ShakespeareのSonnetsをめぐって	5．発行年 2018年
3．雑誌名 レトリック、メタファー、ディスコース（言語文化共同研究プロジェクト2017）	6．最初と最後の頁 19-28
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.18910/69958	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 —

１．著者名 大森文子	４．巻 －
２．論文標題 人の心と空模様：シェイクスピアのメタファーをめぐって	５．発行年 2018年
３．雑誌名 メタファー研究１（ひつじ書房）	６．最初と最後の頁 175-194
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 大森文子	４．巻 －
２．論文標題 孤独と束縛：イメージスキーマで読み解くOwenの "S. I. W."	５．発行年 2017年
３．雑誌名 交差するレトリック―精神と身体、メタファーと認知（言語文化共同研究プロジェクト2016）	６．最初と最後の頁 19-28
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.18910/62107	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 大森文子	４．巻 －
２．論文標題 犬の寓意詩The Council of Dogs における擬人化と寓意のメタファー	５．発行年 2016年
３．雑誌名 越境するレトリック―意味・認識・間テクスト性（言語文化共同研究プロジェクト2015）	６．最初と最後の頁 19-34
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 渡辺秀樹	４．巻 －
２．論文標題 Hamlet における動物名の繰り返しと列挙の意味 ― 翻訳で失われるメタファー義の問題、そして雲の場を中心に	５．発行年 2023年
３．雑誌名 レトリックと文法（言語文化共同研究プロジェクト2022	６．最初と最後の頁 ―
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Hideki Watanabe	4．巻 —
2．論文標題 Syntactic and Narrative Significance of the three instances of that was god cyning in Beowulf Reconsidered	5．発行年 2022年
3．雑誌名 Medieval English Syntax: Studies in Honor of Michiko Ogura Peter Lang: Amsterdam	6．最初と最後の頁 347-364
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1．著者名 渡辺秀樹	4．巻 —
2．論文標題 Shakespeareにおける時の擬人化のヴァリエーション ― 英国16-17世紀詞華集を基礎資料にしたTimeのepithetsとapostrophes 再考	5．発行年 2022年
3．雑誌名 英語のレトリック・日本語のレトリック（言語文化共同研究プロジェクト2021）	6．最初と最後の頁 3-15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.18910/88419	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 —

1．著者名 渡辺秀樹	4．巻 —
2．論文標題 ソネットに見える繰り返しのレトリック再考："when~，then~"の繰り返しを中心に	5．発行年 2021年
3．雑誌名 感情・感覚のレトリック（言語文化共同研究プロジェクト2020）	6．最初と最後の頁 3-13
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.18910/85058	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 —

1．著者名 渡辺秀樹	4．巻 —
2．論文標題 英語本文校訂と注・『獅子の議会 獣たちの論争』日本語訳・獅子の議会　解説（The Lion’s Parliament or The Beasts in Debate (London 1808) 19世紀初頭 英国動物寓意詩「獅子の議会 獣たちの論争」テキスト・日本語訳・メタファー論考	5．発行年 2020年
3．雑誌名 レトリックとメディア（言語文化共同研究プロジェクト2019）	6．最初と最後の頁 1-20
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.18910/77037	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 —

1．著者名 渡辺秀樹	4．巻 —
2．論文標題 英詩感情語のメタファーの系譜 第2回 シェイクスピア『ソネット集』のレトリック再考：感情語の類義・反義を中心に	5．発行年 2019年
3．雑誌名 レトリックとコミュニケーション（言語文化共同研究プロジェクト2018）	6．最初と最後の頁 1-10
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.18910/72808	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 —

1．著者名 Hideki Watanabe	4．巻 1
2．論文標題 The Significance of nacod nith-draca (Beowulf 2273a) Reconsidered: The Metaphorical Link Interconnecting fire, swords, warriors and monsters	5．発行年 2018年
3．雑誌名 Aspects of Medieval English Language and Literature	6．最初と最後の頁 41-60
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1．著者名 渡辺秀樹	4．巻 —
2．論文標題 英語感情名詞のメタファーの系譜　第1回　序及び fear（The Oxford English Dictionary 引用例を資料として）	5．発行年 2018年
3．雑誌名 レトリック、メタファー、ディスコース　言語文化共同研究プロジェクト2017	6．最初と最後の頁 1-18
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.18910/69957	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 —

1．著者名 渡辺秀樹	4．巻 —
2．論文標題 Wilfred Owenの「笑い」の類語とメタファー　The Last Laughは誰の笑いか	5．発行年 2017年
3．雑誌名 交差するレトリック―精神と身体、メタファーと認知（言語文化共同研究プロジェクト2016）	6．最初と最後の頁 9-17
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.18910/62017	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 —

1．著者名 Hideki Watanabe	4．巻 31
2．論文標題 J. R. R. Tolkien, Beowulf: A Translation and Commentary together with Sellic Spell. Edited by Christopher Tolkien.	5．発行年 2016年
3．雑誌名 Studies in Medieval English Language and Literature	6．最初と最後の頁 53-62
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1．著者名 渡辺秀樹	4．巻 —
2．論文標題 19世紀英国寓意詩 The Council of Dogs (1808) 本文校訂・脚注・日本語訳	5．発行年 2016年
3．雑誌名 越境するレトリック―意味・認識・間テクスト性（言語文化共同研究プロジェクト2015）	6．最初と最後の頁 1-18
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 —

〔学会発表〕　計7件（うち招待講演　1件／うち国際学会　3件）

1．発表者名 大森文子
2．発表標題 藤井治彦先生の思い出
3．学会等名 阪大英文学会第50回大会シンポジウム『シンポジウム・藤井治彦』
4．発表年 2017年

1．発表者名 大森文子
2．発表標題 人の心と空模様：シェイクスピアのメタファーをめぐって
3．学会等名 日本語用論学会メタファー研究会
4．発表年 2016年

１．発表者名 渡辺秀樹
２．発表標題 第1次大戦戦地から生還したBeowulf：Wyatt校訂版（1894）とGollancz教授の現代英語訳断片（lines 1159b-1622）
３．学会等名 日本中世英語英文学会西支部例会
４．発表年 2017年

１．発表者名 Hideki Watanabe
２．発表標題 The significance of nacod nith-draca (Beowulf 2276a) reconsidered: The metaphorical link interconnecting fire, a sword, a warrior and the monsters
３．学会等名 International Medieval Conference (at University of Leeds)（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 渡辺秀樹
２．発表標題 The Oxford English Dictionaryを研究と授業に利用する
３．学会等名 大阪市立大学英文学会（招待講演）
４．発表年 2017年

１．発表者名 Hideki Watanabe
２．発表標題 What a Good Sword!: Narrative Significance of the Sentences in the Form of 'that was good cyning' Reconsidered with Special reference to Beowulf 1812b
３．学会等名 International Association of University Professors in English, Medieval Session（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 Hideki Watanabe
２．発表標題 Sir Israel Gollancz’s Translation of Beowulf (lines 1159b-1622) Edited from his Handwritten Leaves Found Inserted in Wyatt’s Edition (1894)
３．学会等名 International Association of University Professors in English (IAUPE)（国際学会）
４．発表年 2016年

〔図書〕　計1件

１．著者名 渡辺秀樹、大森文子	４．発行年 2019年
２．出版社 松柏社	５．総ページ数 94
３．書名 Advanced Reading Word to Word: Various Social Issues	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	渡辺　秀樹 (Watanabe Hideki) (30191787)	関西外国語大学・外国語学部・教授 (34418)	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関